

森の日記 2023年9月18日～12月17日

by 迷鳥キツキ

9月18日は10時からチョウの調査が行われました。最近の気温の低下と湿った天気を反映して地面にはいろいろなキノコが現れていました。チョウのシーズンも終盤となり、現れたチョウの数は少なかったですが、モンキチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミ、ヒョウモンチョウ数種類、ルリボシヤンマ、マユタテアカネなどを見ることができました。スローペースの調査となり、1時半頃の解散となりました。気温は開始時に22℃、終了時に29℃でやや暑く感じましたが、森の中を歩くときは気持ちよかったです。植生復元試験地ではオミナエシがきれいに咲いていました。



左：もりのやま付近を調査中、 右：ウラギンヒョウモン



左：ルリボシヤンマ、 右：2種類のイグチ

9月24日は航空法伐採跡地における植生回復試験地で、自然林から導入した樹木や草本のその後の定着状態を調べました。さまざまな植物をポット苗や脇芽の状態で4年ほど前に移植導入したのですが、大きく育っているもの、消失してしまったもの、自然に生えてきたものなどいろいろなものがありました。エゾノウワミズザクラは生育が良く、既に3メートル近い高さに達しているものもありました。また、オオアワダチソウの侵入状況を調査したのちに除去し、さらにイネ科草本、クローバーなど導入した植物の生育を妨害する植物も除去しました。



左：開始前の説明、 右：植物探しと除草作業

10月1日はエゾリスの会の3つの活動、エゾリスセンサス、蝶類の調査、植物調査の3つの活動が1日のうちに連続して行われました。昨晚から降り始めた雨が今朝早朝まで続いて開催が危ぶまれましたが、活動開始の6時30分前には降り止んで、その後は次第に良い天気となりました。エゾリスセンサスは5つのコースに分かれて行われますが、私は今まで通ったことのないコースを熟練の会員さんと一緒に歩きました。帯広の森運動公園を南北に縦断するコースで、幸いたくさんのエゾリスを見ることができました。エゾリスを探すと同時に地面に落ちているチョウセンゴヨウの実と木の上に付いているチョウセンゴヨウの実の数も数えました。



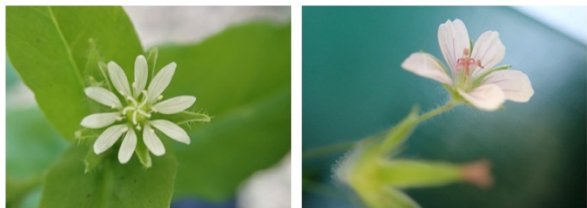
左：集合時の会員、 右：エゾリスとチョウセンゴヨウの実

蝶の調査は10時から行われました。シーズン終盤で涼しくなってきたためか、森の中ではほとんど蝶を見ることができませんでした。しかし、草原部では多数のモンキチョウを、調整池の周りではモンキチョウやモンシロチョウの他、オオウラギンスジヒョウモンやベニシジミ、季節外れのコキマダラセセリなど多種類の蝶を見ることができました。



左：草原を進む会員、 右：モンキチョウ

植物の調査は14時から行われました。春や夏と比べると華やかな花は少なくなりましたが、各種のキノコや実を着けた植物を観察することができました。全て終了したのは17時頃でした。



左：ウシハコベ、 右：ゲンノショウコ

10月15日、去年に引き続きエゾリスの会はトヨタソーシャルフェスに参加しました。一般市民とJICAの研修生の参加を得て、帯広の森のいつもの活動地で、帯広の森の育成について学び、十勝本来の森林植生を再現するうえで障害になっているチョウセンゴヨウの実生の除去作業を行いました。参加者は39名でエゾリスの会会員14名がスタッフとしてお手伝いしました。他に協賛のトヨタ自動車販売店の皆さん、後援の北海道新聞の記者の方たちが参加しました。JICAからは今年は英語に堪能な研修監理員の方たちが同伴して来てくださったので、諸外国からの研修員との意思疎通もうまくいきました。集まってくれた参加者の皆さんも、日頃はめったにすることがない「森の中に入る」という経験をし、単にチョウセンゴヨウの実生を抜くだけでなく、森の植物やキノコ、小動物などにも接することができて満足だったとの感想を述べておられました。



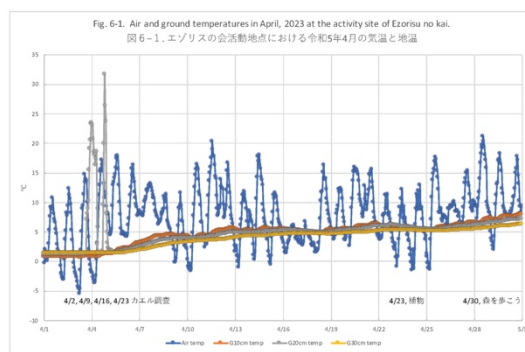
上：集合写真、

下：森に学ぶ

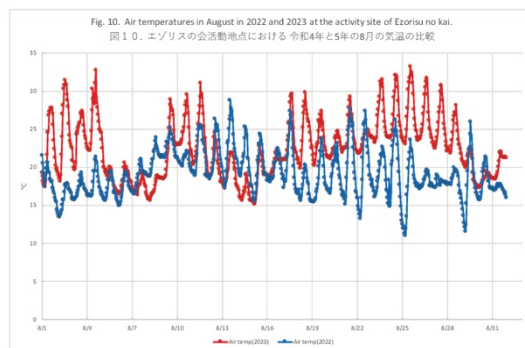


上：チョウセンゴヨウを探して抜く参加者

エゾリスの会の集合地点で記録した温度データを10月28日に読み出し、そのデータをグラフにしました。1種類は月ごとに気温と地温(深さ10, 20, 30 cm)の変化を示し、これに各月の活動項目を付記したものです。ここでは2023年4月の気温と地温のグラフを掲載しました。



もう1種類は月ごとに2023年と2022年の気温を比較したものです。下の図は暑さが激しかった8月のグラフです。https://tsutsuki.net/special_Ezorisu.html#contents



11月19日は森の中のチョウの観察ルートを広げました。場所は自衛隊の滑走路の延長上にあるためいったん伐採された地域です。以前からその中にチョウの観察ルートを設定してきましたが、木が再び繁茂してきてどこが調査路がよくわからなくなってきました。そこで、チョウを観察する際に邪魔になる木や枝を一定の幅内(5m)

で間引きしました。チョウも開けた場所を好んで飛びます。伐採したミズナラの木は、椎茸のホダ木にするため、エゾリスの会の集合地点付近に運びました。働き蜂がいなくなったスズメバチの巣や、木の幹に産まれたアブラムシの越冬用の卵などを作業終了後に見つけました。



左：作業中のメンバー、 右：崩れかけたスズメバチの巣。

12月10日は朝9時から鳥類調査が行われました。快晴でしたが強い風の吹く天気でした。9時の気温は2.2℃とそれほど寒くありませんでした。8名の会員が集まりましたが、リーダーになれる人が2名しかいなかったのので、2班に分かれ、あとの班は調査路を2回巡ることになりました。あとの班は出発してまもなく森の中でオオアカゲラを見ることができました。他にもヒヨドリ、カケス、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、アカゲラ、コゲラ、キバシリ、ノスリ、オジロワシ、エナガ、ヤマガラ、ハシボソガラス、トビなどがいました。3巡目の調査では第1班のリーダーさんが仕事で帰られたので、残りの3名の方が3巡目の調査にも加わられました。3巡目で現れたのはヒガラでした。巡回ごとに出会う鳥の種類と場所が異なる点が面白かったです。調査路は草原部のオオアワダチソウの葉も枯れて歩きやすくなっていました。枯れた風景のなかでツルウメモドキやハマナスの実の赤色が鮮やかでした。12時30分頃終了しました。



左：オオアカゲラ、 右：ヒガラ。

12月17日は観察小屋周りの清掃片付けと、焚火を囲んでの冬至祭をしました。昨日から雪でしたが、当日の日

中はときどき吹雪いたくらいで穏やかな天気でした。スエーデントーチ作りや焚火の後始末をするための穴掘りも行いました。皆がいろいろな食材を持ち寄り楽しい冬至祭となりました。



左：スエーデントーチ作り、 右：焚火を囲んで。